

東急グループ代表 越村敏昭（東京急行電鉄代表取締役会長）年頭あいさつ【要旨】

東急グループ

1. 日 時 2012年1月4日（水） 9時10分
2. 内 容 東急グループ各社トップに対する年頭あいさつ
3. 要 旨

昨年を振り返りますと、まず挙げられることは3月11日に数百年に一度という大震災が発生したことです。既に、10ヶ月が経過しようとしていますが、被災地の復興などには長い時間を要するものと予測されます。また、東京証券取引所の大納会では29年ぶりの安値で終わる年となりました。こうした社会・経済状況のなか、国内の消費の低調が一貫して続き、さらに海外からのお客さまも減少するなど、消費者と直結するリーテルやリゾート・ホテル事業などにとっては厳しい事業環境でした。

一方で、東急グループにとって、持続的成長の基盤となる大規模開発事業が着実に推移しました。二子玉川では、3月に「二子玉川ライズ・ショッピングセンター」がグランドオープンし、本年にはいよいよ第2期工事の着工が控えています。第1期事業との相乗効果をはかり、自然と調和した街づくりに、グループの総力をあげて、取り組んでいきます。また4月には、大阪府下最大級のショッピングセンター「あべのマーケットパーク キューズモール」を開業し、来館者数、売上高ともに計画を上回る好業績を上げています。加えて、五島育英会が運営する「東京都市大学塩尻高等学校」では、野球部が昨年夏の全国高校野球大会で甲子園に初出場したほか、サッカー部、女子バレー部、空手道部がこの正月および春の全国大会に出場を果たしたことは、明るいニュースです。

本年は、渋谷駅周辺開発事業のリーディングプロジェクトである複合ビル「渋谷ヒカリエ」が、4月26日にオープンします。東急百貨店の新しい商業施設「ShinQs（シンクス）」も同時に開業をむかえ、7月には、「東急シアターオーブ」が「ウェスト・サイド・ストーリー」で幕を開けます。さらに、同じ4月には「東急プラザ表参道原宿」がオープンします。グループの総力を結集し、「エンタテインメントシティしばや」の象徴となることをおおいに期待しています。また、東急東横線・東京メトロ副都心線の相互直通運転開始に向けて工事を進めるほか、渋谷駅街区をはじめとする再開発事業も順次進んでいきます。多くの国から人、ビジネス、消費を呼び込む広域渋谷圏の実現に向けて、前進する年となります。

これまで、機会があるごとに申してきましたが、わが国は既に人口減少時代を迎えており、少子高齢化が世界に例を見ないスピードで進み、国内の消費の量的縮小は避けられないところにきています。国内の消費者ニーズをより細かにとらえ、イノベーションによって同業他社に先駆け、成長のフロンティアを開拓することは大事です。経済・人口ともに大きく成長を続ける東アジア地域のマーケットを意識した事業展開が重要となります。

さらに、経営トップには「国の内外を問わず胸を張って市場に説明できる基準」による経営が要求されます。そのためには、常にデータなどの客観的情報や事実を重んじ、これまでの制約に囚われずに、的確な見通しに基づく合理的な判断による経営を求めます。

東急グループ一丸となって、持続的成長の礎を強固にする年にしていきましょう。

以 上